



淨東方

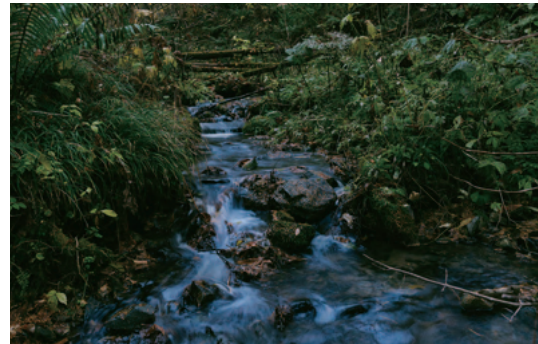
閉伊川紀行



蛇紋岩の尖り

森が育む

はじまりの水



兜明神岳・閉伊川源流域

39° 39'28.5"N 141° 22'10.0"E

盛岡から東に向かうと「北上山地」あるいは「北上高地」と呼ばれる山の世界に入っていく。入口となるのは区界峠。そこには兜明神岳がそびえ、数億年前にはじまった土地の歴史を物語るかのようにその頂部を蛇紋岩で尖らせている。

閉伊川のはじまりの一滴は兜明神岳中腹の美しいブナの森より湧き出し、山々を越えて遙か先の宮古湾を目指す。

遠い時代、とある高僧が宮古の人里離れた渚で現世の浄土を見出したという。やがてその噂はあまねく伝わり、多くの人が東の海にある浄土へと旅に出たと、伝承が語っている。蛇紋岩の尖りの下で生まれた水脈もまた、この浮世では浄土を目指すのだろうか。今日も東方の海を目指し、流れていく。

めぐる季節

錦繡に染まる山々

雲を運ぶ水面



大峠ダム・閉伊川中流域

39° 38'00.1"N 141° 32'08.8"E

区界峠を源にし、ひたすら東へと向かう閉伊川の旅路。その距離は約90km。河口域の宮古に至るまで市街地はなく、並ぶ山を縫いながら進む。ときに飛沫を上げ、ときに淀みをつくりながら進む閉伊川に並走しているからだろうか。国道106号線から見る風景は、山々を映す川面を滑るような鮮烈な印象を与える。

この旅路で出会う自然美でいうと中流域の大峠ダム付近はまさに別格だろう。幅116m、高さ16mの治水ダム両脇の山々はあたたかも背の順で整列するかのようになり並び、四季の表情を湖面へ投げかける。とくに紅葉の時期は圧巻だ。ナラの鮮やかな黄とカエデの明るい赤が混ざり合う北の森特有の色彩が山の隅々にまで展開されていく光景を前にすると、出るのは深いため息ばかりだ。

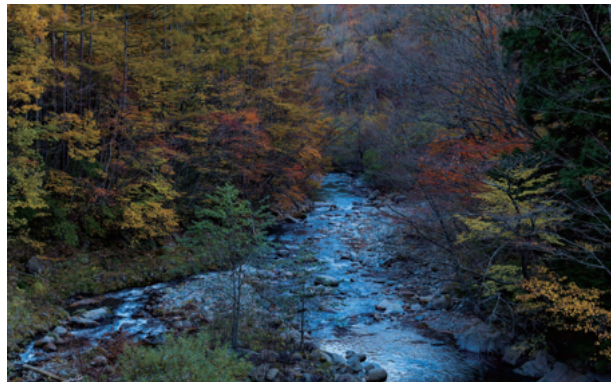
ただ、この大峠付近を通過していた旧宮古街道の歴史を紐解くと、断崖続きで大きく湾曲する流れによって往來は困難を極めたという伝承が浮かび上がってくる。自然は常に泰然として、人はそこに真摯に向き合うしかない。そんなことを大峠のダムでひと休みする澄んだ流れのなかに思う。



ひしめく山々

早池峰山の界隈

太古のときを刻む



北上高地遠景・薬師川上流

39° 32'27.1"N 141° 29'44.3"E

閉伊川は周辺の山々から湧き出したいくつもの支流を集めて流れる。早池峰山麓を源とする薬師川は、そうした支流の代表格だろう。原生の深い森から生まれた流れは清冽さに磨きをかけてるように水面を輝かせながら本流を目指す。

薬師川を語る上で欠かせないのが早池峰山の存在だろう。岩手県で第二の標高を持つこの山のルーツは4〜5億年前の古生代の海にあるとされている。北上高地は地質的には、南部北上帯と北部北上帯に分かれ、それぞれが異なる時代と場所で作られ、数億年に渡る地球規模のプレート運動によって約1500万年前頃に現在の形を作り出したとされている。早池峰山はこの二つの地質の境目なのだという。

霊山として信仰を集めてきた早池峰山。遠い時代の人々は、この山をはじめとする北上高地に地球の記憶を聴き、畏怖を覚えたのかもしれない。



川から聞く

遠い日の記憶

鞭牛和尚の足跡



平片の滝・岩穴川上流域

39° 42'10.2"N 141° 42'58.0"E

閉伊川に寄り添って走る旧宮古街道が語られるとき、かならず耳にするのが街道の開削に人生を捧げた牧庵鞭牛の名だ。鞭牛は、江戸中期に現在の和井内地区に生まれ、母の死をきっかけとして22歳のときに仏門に入った。この鞭牛が宮古街道の開削に着手したのが46歳のとき。三陸地方を襲った飢饉の惨状を目の当たりにし、陸の孤島と呼ばれた沿岸部と内陸を結ぶ道があれば、たくさんの救える生命があることに気づいたからだという。

以後、鞭牛は鑿と鉄槌を手に岩を砕き、この地を照らす一筋の光とでもいうべき道を築き続けた。鞭牛は73歳で逝くことになるが、その生涯で開削した道は400kmにも及ぶ。鞭牛の不屈の精神が見据えた先にはいつも、人が安らかに暮らす浄土があったのかもしれない。

そんな鞭牛の功績や在りし日を伝える史跡が現在の国道106号線道沿いに点在する。

海と川の旅

飛沫をあげる

生命の輝き



鮎の築場・閉伊川中流域

39° 36'55.8"N 141° 47'46.1"E

全流域を通じて、大きなダムを持たない閉伊川は、魚たちにとって楽園でもある。イワナ、ヤマメ、アユと、清流でこそ生命を煌めかせる魚たちが数多く生息し、釣り人たちがその魚影を追う。

なかでも閉伊川のアユは鮎師たちにとって憧れとも言える存在だ。稚鮎の放流も行っているが、河口とアユが生息する中流域までの距離が短く、しかもダムがないために自然遡上するアユが多いのがこの川の特徴だ。もちろん、アユが必要とするコケ類が豊富だという点もこの川

にアユが集まりやすい要因だ。海から遡上したアユは、森の滋味溢れるコケを食べ、眩い夏をせせらぎのなかで過ごす。

そして秋のはじまりとともに、アユたちは産卵のために再び宮古湾を目指し、川を降っていく。もちろんその旅路は容易ではない。流れの先では人間が築を仕掛け、捕食を企む鳥たちも待ち構える。でも、それは他の生命を育む輪廻でもある。アユの旅は止まることなく、瑞々しいまでの生命を抱え、清らかな流れに乗って彼らにとっての浄土を目指していく。



山峡を背に
流れ、滔々と
海を目指す



根市・閉伊川下流域

39° 37'56.1"N 141° 53'11.8"E

一滴の湧水からはじまった閉伊川も中流部を過ぎると川幅を広げ、大河の様相を呈してくる。清流から大河へ。その成長を育んできたのは北上高地の山々だ。森に広がる柔らかな腐葉土が蓄えたたっぷり水を沢へと送り出し、閉伊川の流れに託す。

その繰り返して閉伊川は徐々に流れを太くしていく。そして、もう少しで宮古湾に辿り着かんとする直前で、山は別れを告げるように川をその先へと送り出す。

無数と言えるほどに立ち並ぶ山々の懐に抱かれるように流れ続けた川の両脇には、もう山の姿はない。山肌を美しく飾る木々が川面に映じられることもない。川に心があるとしたら孤独を覚えるのかもしれない。しかし、山に育まれた流れは見違えるほどに逞しい。溢れるほどにたっぷりの水を抱える流れは、山々を映すかわりにどこまでも続く空の色を川面いっぱい広げていく。空を映し、音もなく滔々と流れる川の姿は、長い旅で得たものの豊かさを物語るようだ。

閉伊川はやがて宮古市街に入り海と出会う。川が海原に消えていくその瞬間は、いつも美しい奇跡にも見える。

奇岩そそりたつ

浄土の海

光が闇を開く

ときは江戸時代、「さながら浄土のごとし」、そう感嘆の声を挙げたのは宮古山常安寺七世の靈鏡竜和尚だった。当時の浄土ヶ浜近辺は未開の地だったため、靈鏡和尚は船を使い、この地に辿り着く。海原の向こうから突如現れた奇岩群と青い海が調和する風景は神秘を超え、現世の浄土と思えたのだろう。

閉伊川の流れを辿り、東方の浄土を求めた旅。終着の地は今も闇を開く浄土としての永遠の時を歩んでいる。

浄土ヶ浜・三陸海岸

39° 39'10.9"N 141° 58'48.8"E



盛岡から宮古へ、東方浄土への旅



① 盛岡城跡公園
盛岡のランドマークで日本百名城のひとつ。見所は桜と紅葉で時期になると賑わう ●盛岡市内丸 1-1-37



② 石割桜
巨石の間を割って岩手に春を告げる樹齢300年を越すエドヒガンザクラ。国の天然記念物 ●盛岡市内丸 9-1



③ 米内浄水場
県内有数の枝垂れ桜の花見スポット。満開の時期には、春爛漫、夢うつつの世界を堪能できる ●盛岡市上米内中居 49



④ 築川ダム
北上の支流築川の中部に2021年に完成した治水目的の重力式コンクリートダム。区界峠が分水嶺となっている



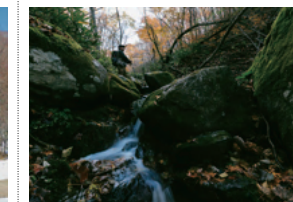
⑤ 兜明神岳
閉伊川紀行の玄関口、区界峠にそびえる標高1,005mの山。その頂には蛇紋岩が露出し、北上高地の歴史を伝える



⑥ 道の駅 区界高原 ビーフビレッヂ区界
区界峠の休憩スポット。2021年3月リニューアルオープン ●宮古市区界 2-434-2



⑦ 区界高原ウォーキングセンター
兜明神岳周辺のトレイルの情報を提供 ●宮古市区界第2地割 111-54 ●0193-77-2216



⑧ 閉伊川源流
閉伊川の源流部は、兜明神岳の中腹付近一帯から湧き出す水とされている。周囲には美しい落葉広葉樹の森が広がる



9 大峠ダム
 閑伊川沿いのビュースポット。ダムを囲む山並みが美しく、新緑と紅葉時期がおすすめ。また山田線のビュースポット



13 早池峰山
 標高1,917m、北上高地の最高峰にして日本百名山のひとつ。ハヤチネウススキソウをはじめ、固有種が多い山でも有名

17 道の駅 やまびこ館 閑伊の郷かわい
 閑伊川の旅の中継地。土地の逸品が揃う●宮古市川内8-2 ●0193-85-5011



10 薬師塗漆工芸館
 漆工芸の展示のほか、螺鈿技法が体験できる施設。やまびこ館の敷地内に併設●宮古市川内8-8-1 ●0193-75-2351



14 薬師川渓流の古生界
 三陸ジオサイトのひとつ。4億年前に遡る早池峰構造帯と南部北上帯の地層を前に大地の躍動を感じられる場所

18 タイムグラキャンプ場
 早池峰山麓の美しいキャンプ場。目の前には薬師川も流れる●宮古市江繋第5地割3番地3 ●0193-78-2031



11 平片の滝
 宮古街道の開削に尽力した牧庵鞭牛が修行したと伝えられる滝。周囲は深い森でどこか神秘的な気配が漂う



15 西塔幸子記念館
 岩手を代表する歌人・西塔幸子の貴重な遺稿などを展示●宮古市江繋第9地割43 ●0193-78-2705

19 横沢温泉「静峰苑」
 大正時代に発見されて以来、地元の人たちに愛される冷泉●宮古市鈴久名第4地割5-4 ●0193-74-2444



12 岩泉線レールバイク
 廃線となった岩泉線を自転車駆動で走るアクティビティが楽しめる●宮古市和井内21-1-3 ●080-5564-2310



16 北上山地民俗資料館
 山に抱かれた北上高地の暮らしや林業をはじめとする生業を伝える資料館●宮古市川井第2地割187-1 ●0193-76-2167

20 里の駅 おぐに
 小学校校舎を改築した産直施設。季節の農産物ほか土地の味を楽しめる●宮古市小国9-81-1 ●0193-77-5198



21 源兵衛平高原キャンプ場
北上山地の真っただ中にあるキャンプ場。大自然しかないのが魅力●宮古市刈屋 9-98-6



22 旧市役所跡地(うみどり公園)
すべての人が楽しめるインクルーシブ遊具を備えた公園●宮古市新川町 2-1



23 青の洞窟
さっぱ船で行く神秘の世界。洞窟内に広がるのは、エメラルドグリーンの世界。三陸の海のみしさは訪れた人の胸を打つ



24 潮吹穴
太平洋に面した海食洞から噴き出す海水は高さ30mにも達することも。国指定天然記念物にも指定されている



25 リバーパークにいさと
閉伊川を望む総合レクリエーションパーク。宿泊、キャンプなど多彩な楽しみ●宮古市茂市第8地割 53 ●0193-72-3800



26 腹帯の混在岩
約1億5000年前に地殻の大移動で生まれた北部北上山地の大地の歴史を伝える岩石が観察できる



27 鞭牛の岩屋
宮古と盛岡を結ぶ宮古街道の開削に人生を捧げた鞭牛和尚の修行の地。岩屋の中には土地の信仰を伝える石碑が並ぶ



28 鮭ヶ崎灯台
本州最東端の鮭ヶ崎にある灯台。映画のモチーフになったことでも知られる。徒歩でのみアクセス可能なプチ秘境

29 鳥取春陽生家
「籠の鳥」で知られる作曲家、鳥取春陽の生家。懐メロファンにおすすめ●宮古市刈屋第9地割 74 ●0193-72-3600

30 新里生涯学習センター 玄翁館
牧庵鞭牛、鳥取春陽など、郷土の偉人を伝える●宮古市茂市 5-2 ●0193-72-2019

31 道の駅 みやこ シートピアなあと
特産品コーナー、レストランなど宮古の魅力が満載●宮古市臨港通 1-20 ●0193-71-3100

32 旧たろう観光ホテル
3.11の東日本大震災の記憶をつむぐ震災遺構。津波の驚異を今に伝える●宮古市田老野原 80 ●0193-77-3305

岩手県東部の大部分を占める
北上高地。

それは青森県八戸から宮城県
牡鹿半島に及ぶ南北約二百五十
キロ、東西最大八十キロの紡錘型
を成した山地である。そこには、
古生層、中生層からなる標高約
一千メートルの山々が、無数に
ひしめく。

この山塊を押し分け、谷を刻
みながら流れるのが岩手を代表
する河川・閉伊川である。

盛岡の東、区界高原に源流を持
ち、約百キロの旅を経て陸中宮
古へと注ぐこの川は、長い歴史
のなかで人の暮らしに寄り添っ
てきた。それは二十一世紀を迎
えた今も変わることがない。と
きに激しく飛沫をあげ、ときに
滔々と流れる水脈を辿り、風土を
感じながら東へ東へと向かう旅。
その先で待つのは、「さながら浄
土のごとし」と謳われた現世の
極楽である。


遙か東方で待つ極楽の浜へ、旅
立ちのとき。

東方 浄土



宮古遠景・閉伊川河口域

39° 38'19.8"N 141° 57'49.7"E



遙か東方へと続く水脈の旅路。
果てなき道を辿った先は、
さながら浄土のごとし

発行：宮古商工会議所
027-0074 岩手県宮古市保久田7番25号
TEL: 0193-62-3233 FAX: 0193-63-6131

当事業は「東北復興道路～道・絆プロジェクト」の支援を受け実施しております

東北 復興道路 ～道・絆プロジェクト～